

私が前南に赴任して、四年の月日が経とうとしている。楠の巻頭言執筆も四回目となり、校長として書く原稿もこれで最後になる。振り返ると私の前南での生活は、まさにコロナ禍とともに過ぎていった。毎日のように状況が変わり、感染状況も回復と悪化を繰り返すため、先を読むことが難しく、学校を運営していく上でも、難しい判断を迫られる日々の連続であった。

コロナがインフルエンザと同じ第五類に分類されたことで、次第に今年度は年度当初よりコロナ禍以前の生活が送れるようになってきた。特に学校の主役である生徒達は、思い描いていた高校生活を送れず、辛い思いをしたことも多かったと思う。しかし、前南生はそこで立ち止まらず、しっかりと前を向いて歩き出してくれた。頼もしい限りである。それにしても、当たり前がこんなに大切に、普通であることがこれほど嬉しく感じたのも久しぶりである。

さて、前南は今年度、群馬県教育委員会からS A H (Student Agency High school)の指定を受けた。「自ら考え、判断し、行動できる生徒」の育成、点数で判断できない力である非認知能力の育成を目指した取組を研究開発せよとのことである。前例のない、何が正解かもわからない中でのスタートであった。そこで方向性として私が先生方をお願いしたのは、『後出し指導』の徹底である。教員はついつい「ああしろ、こうしろ」と先回りした指導をしてしまう。生徒に考えさせ判断させるには、いかに待てるかが大事であるがこれが難しい。私は前南生にも呼びかけた。「こうしたい」「これができたらいいのに」と思うことがあれば、声に出して欲しい。校長を説得できれば学校が動く。校長室で待っていると。

夏の甲子園群馬県大会を前にして生徒会が動いた。本校の一回戦が平日に行われることになったが、どうしても応援に行かせて欲しいとの訴えであった。気持ちはわからなくはないが、越えなければならない壁が沢山ある話をして帰っていただいた。しかし数日後、目的や費用、遵守事項や制約等を企画書にまとめて再度、校長室にやってきた。私は迷わず「GO！サイン」を出した。先生方もできることから始めようと、様々な面から検討を進めている。今現在も前南生から部活動や委員会活動、更には学校設備や学校行事に関する多くの提案がなされて、検討が進んでいる。良い学校だよな。